

例会報告

第2807回例会報告議事録

日時 令和7年12月9日(火曜日)

場所 ハート柏迎賓館

時間 12:15点鐘

ロータリーソング「我らの生業」

ゲスト：我孫子市教育委員会 生涯学習部

文化・スポーツ課 歴史文化財係

主任 稲村隆様

ビジター：なし

S.A.A.：小野会員

会長挨拶

柳田会長



本日も例会にご出席いただきまして、ありがとうございます。

先日の手賀沼ふれあい清掃に参加された方、ありがとうございます。

今朝ほど千葉テレビでCMを打っていて、11月から3月9日まで幕張イオンモールでハッピードリームサーカスを開催しています。通常2,500円ですが、000円のチケットがございますので、ご興味のある方は事務局までお声がけください。

来週は親睦夜間例会です。ぜひ皆様ご参加いただければと思います。

本日もよろしくをお願いします。

親睦委員会報告

関根委員長



来週12月16日(火)はクリスマス例会がございます。18:30点鐘予定です。送迎バスが出ます。お料理は豪華にさせていただきますし、デザートビュッフェも考えておりますので、ぜひご家族の方もご参加の方よろしく願いいたします。

1月13日(火)は新年例会がございます。こちらも是非ご家族と共にご参加の方よろしく願いいたします。

出席委員会報告

石原委員長



26名(出席免除者含む)出席(全員で32名) 出席率81.25%

業務による欠席：梶幹事、荒井フェロー、甲斐フェロー、木村(政)フェロー、前田フェロー、湯下フェロー

ZOOMによる出席：古谷野フェロー

ロータリー財団委員会報告

倉持委員長



先月は財団月間で皆様にご協力いただきまして、ありがとうございました。

7月から11月末までの年次基金の累積だけ報告させていただきます。我孫子ロータリークラブは年次基金が4,176ドル、ポリオプラスは832ドルの寄付をいただいています。

補足ですが、一昨年2023-2024年度と昨年2024-2025年度の寄付額の純増の幅が日本の34地区で2790地区が1位になっています。23-24の時は寄付額が落ちていて、一昨年の会長は何をしていたのか考えたのですが、僕でした。(笑)

まだ閉まっていませんので、年度中これからも頂ければと思います。よろしく願いいたします。



- ・先日のふれあい清掃、ありがとうございました。
- ・テーブルに前年度の会計報告を置いてあります。何かお気づきの点がありましたら、梶幹事までお願いいたします。
- ・東クラブの創立50周年記念式典・祝賀会のご案内です。
親幹事として会長幹事以外の方もいっぱい来てくれとお声がかかっております。2月23日(月・祝)にこちらハート柏にて3時から記念式典、6時～8時に祝賀会が行われます。参加費は2万円になっております。

卓話「我孫子に於ける白樺派の価値」



我孫子市教育委員会 生涯学習部 文化・スポーツ課 歴史文化財係

主任 稲村隆様

本日はお世話になります。我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課の稲村と申します。よろしくお願いいたします。

「我孫子に於ける白樺派の価値」とかっこつけて書いたのですが、こちらに写っている油絵が白樺派が暮らした頃の我孫子の風景です。こういう風景の中でなぜ白樺派がやってきたのか、近年発見された志賀直哉の草稿(下書きの原稿)、その辺の話をさせていただければと思います。

私がどのような経歴の人間かといいますと、中央学院高校卒業後に法政大学に進学させていただきまして、大学院に行きながら白樺文学館で非常勤を10年ほどさせていただきまして、で、常勤で雇っていただきまして、今、文化・スポーツ課にいるということです。

もともとは文学のぶの字もあまり知らなかった人間で、「明治から大正時代における朝日新聞社内の組織、人事、派閥」を研究しており、大好きなのは「白い巨塔」とか「華麗なる一族」とか人間のドロドロした部分を見たいな、何が正義か、というようなところですが、そこから何故、白樺派なのかというと、大正時代に活躍した近代文学の方々、ということになります。

白樺派は学習院の同窓生を中心とした人脈です。白樺という雑誌に集った文学とか美術の集団だったので、白樺派と言います。要するに大正時代の文化をリードしたグループでした。

文学だけでなく、西洋美術にも関心を示し、ロダン、セザンヌ、ゴッホ、ルノアール等の後期印象派等を紹介しました。

白樺派を現代風に解釈すると、1910年～1920年代の若者達のインフルエンサーのような存在でした。今はSNS、インターネットの時代ですけれども、彼らの時代はラジオができるちょっと前でしたので、紙メディアが最新メディアでした。そこで新カルチャーを紹介していました。

クラウドファンディング的な活動もしていて、ロダン等の作品を集めて美術館を作ろうという白樺美術館構想というのもありました。残念ながら白樺美術館はできないのですが、彼らが集めたコレクションは国立美術館等に入っていたりします。

我孫子に住んでいた白樺派の人々は柳宗悦、志賀直哉、武者小路実篤等です。

なぜ我孫子にやってきたのかというと、アクセスの良さです。昔は我孫子駅は特急が止まるターミナル駅でした。それと景観の良さです。昔は天神山からきれいに富士山が見えました。

白樺派が我孫子にやってきた頃の日本はどんな時代だったかということ、10年ごとに戦争をしている時代でした。日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦。シベリア出兵、ソ連に社会主義の国ができると社会主義の流入をふせぎたいということで出兵しました。

1918年前後からスペイン風邪の大流行、関東大震災、明治の終わりから大正時代には結構いろんな出来事がありました。この時代に中流階級というものが生まれました。新聞や雑誌の発行も伸びてきてメディアも発達しました。識字率も90%を超えてきました。

我孫子の歴史はどうだったかということ、常磐線、成田線が通り、我孫子駅の南に製糸工場がで

きました。明治の産業は生糸の輸出が中心でした。水をたくさん使うので手賀沼沿いだったのかと思います。

アクセスの良さ、景観の良さから別荘地が広がってきました。今でも残っているのは杉村楚人冠という朝日新聞のジャーナリスト、嘉納治五郎の別荘です。その後、白樺派と呼ばれた3人がやってきました。柳宗悦が最初にやってきます。

柳さんのおじさんが嘉納治五郎でした。嘉納治五郎の甥っ子が柳宗悦でした。

柳宗悦は我孫子にきた頃はキリスト教の研究等をされていた宗教哲学者でした。海軍のお偉いさんの息子でした。我孫子には7年ほどお暮らしになっています。彼は白樺派というよりは民藝、器や家具とかそういう日用使いするものにこそ美があるという考え方でした。

民藝の仲間だったバーナード・リーチは我孫子には2年位しか滞在しませんでした、90歳過ぎるまで陶芸、銅版画活動をされる中、自伝で、我孫子にきた年に人生で最も幸せだった年が始まった、と思いの地として我孫子の評価しています。文学館に手賀沼の彼の銅版画があります。

武者小路実篤さんはお公家さんでした。仲良きことは美しきかな、という言葉と野菜の絵が有名です。この方も2年くらいしか我孫子にはいませんでしたが、その間、8冊も本を書いています。

新らしき村という理想の社会、共同体の試作を我孫子で練っていました。

小説家、志賀直哉は8年ほど我孫子で暮らしています。我孫子を舞台にした小説も多くあります。

志賀直哉がお父さんと仲が悪いというのは有名です。我孫子に来る前に結婚をしたのですが、相手である泰子（さだこ）さんが再婚で連れ子もいたために結婚にも反対され、もっと仲が悪くなりました。年が明けるとお父さんの戸籍から抜くくらい断絶しました。

我孫子に来る前には泰子さんはノイローゼになっており、赤城山で山籠りをしようとしていたところ、柳さん達が遊びに来て、我孫子の方がよいと言われ、我孫子に家を買って住むことにしました。

小説の神様と呼ばれた人のお父さん達が何をしていたかという、おじいさんは武士の時代に相馬の藩のお殿様の家礼職、執事のような役割をしていましたが、明治になりますと、時の政府から一時金をもらい足尾銅山開発に携わったりしました。

お父さんは総武鉄道の創立者の1人であったり、生命保険の取締役とか手広く実業をされました。

我孫子に来る前は志賀直哉は小説が書けなくなっていました、我孫子に来てやっと息を吹き返すように創作できるようになりました。「城の崎にて」は兵庫の話ですが、発表したのは我孫子です。

「和解」「雪の日」等は我孫子で書いて我孫子で発表しました。彼の唯一の長編小説「暗夜行路」は我孫子で連載が始まりました。

余談ですが、ちょうど昨日、志賀邸でNHKニュースに生中継で出ました。見つかった資料が何かと言うと、志賀直哉氏の小説原稿の下書きでした。我孫子の地元で活躍されていた方が志賀さんに託されていた原稿でした。

近代文学史における最高峰と言われる「暗夜行路」の創作段階の今まで見つかっていない資料だということで学術的な価値があり、あるいは、地元の人とのつきあいがなかったと言われていましたが、そうではなかったという物証的に示すものとして郷土的な価値があります。

あるいは物語が生まれる街、と我孫子では今、言っていますので、その象徴的な意味でのシティプロモーション的な価値もあります。

その原稿が見つかったのは昨年でした。

どうやって見つかったかと言うと、今年が我孫子市政55周年で、昨年、何かネタはないかと上司に言われたのですが「そんなに簡単にネタは見つかりませんよ」と言っていたら、その日の午後に市民の方から電話がありまして、「このノート、もしかしたら志賀さんの字じゃないのかな」と言われて見てみたら、これは間違いなし、ということで聞き取り調査をして、上司に報告して今回の展覧会につながりました。

何が言いたいかというと、何でも言霊ですから、できると思ったことは言った方がいいんです。今、年末ですから宝くじを買っていただいて、当たる当たると思えば当たるんです。もし、この話を聞いて当たったら、ぜひ少しでもいいので寄付していただきたいな、というのがこの話のオチです。

その資料を託された人物がどんな人だったかということ、小熊太郎吉（たろきち）という方で、元々小学校の先生で、その後、提灯とか剥製とか昆虫標本を作っていた方です。1943年に亡くなっていますが、本当にいろんなものを集めて文芸をやっていた方、という意味では近代我孫子を代表する知識人ということで今回紹介しています。

小熊太郎吉さんには歴史という意識があり、歴史参考品、古墳から出てきた出土品を自分で標本箱に入れて見せるようにしていたり、駅前の八坂神社のお賽銭帖なんかも持っていて、地域信仰的な意識が彼にもあったようで八坂神社と香取神社の社務に非常に関わっていたということもわかっています。

文藝への関心もありまして、自分で雑誌をやっていたそうです。英国人の見た我孫子の祭り、という記事も書いてくれていまして、バーナード・リーチが八坂神社の祭礼を称賛している記事が出てきました。

この人は実は町会議員もやっていて、地元で活躍する中で、おそらく人に請われて町会議員も務めたのだと思います。郷土のために活躍する人材をちゃんと作りましょう、教育にお金をかけましょうということも彼はやっていました。

彼には、郷土愛や郷土を支える人材を育成しようという意識があったのだと思います。郷土愛とは生まれ育った故郷への愛情、シビックプライドとは、そこを一步進めて、地域に対する住民の誇りや愛着、地域をよりよくしようとする意識、というところでいけば、まさに皆さん方がそういう意識でいらっしゃるから我孫子が支えられているんだと、媚びを売ったような話をしてしまいましたけれども、とにかく我孫子の文化に尽力した人物だったことは間違いありません。

我孫子における白樺派の価値とは何なのかと言った時、近代我孫子の象徴的存在であることは間違いありませんし、今でも文化とか芸術に関心の高い方は我孫子に多いです。そういった先導者だったのが白樺派だったと思います。つまりは我孫子という場所の魅力を高めて、魅力ある人々を我孫子に引き込んだ文化空間の創造者が白樺派だと思います。

今、求められているのはポスト我孫子白樺派ってところなのです。白樺派はコンテンツですよ、と。イメージ戦略として活用していただけないかなと、要はブランディングという意識です。つまりは地域活性化のシンボルとして使えればと思います。

その時に大事なのはストーリーです。我々が伝えられるのは歴史とか、そういったものをどう活かすか、それは目に見えないものですから、今、白樺芸術祭というのをやっていただき、使っていて本当にありがたいなと思っています。

この間11月30日にワンデーイベントで志賀直哉のお孫さんが来られて、トークイベントを行いました。

明日、けやきプラザで映画「暗夜行路」が上映されますので、お時間がある方はぜひ見ていただきたいなと思います。

まだまだお伝えしたいことは沢山あるんですけど、私はYouTubeでもしゃべっていますので見ていただければなと思います。

最後に、うちの館長から言われていることです。ので言わなければいけないのですが、文学館の基金にもご協力いただけたらいいかなということで、まとまりがありませんが、ありがとうございました。



稲村様、本日はありがとうございました。トークの勉強になりました。
例会を閉会いたします。

ニコニコBOX

お名前	メッセージ	金 額
柳田会長	稲村様 卓話ありがとうございました。	1,000円
上村(英)会員	稲村様 ありがとうございます。	1,000円
川村会員	卓話ありがとうございました。	1,000円
木村(隆)会員	稲村様 卓話 有難うございました。	1,000円
倉持会員	稲村様ありがとうございました。	1,000円
小池会員	稲村様 卓話ありがとうございました。	1,000円
佐藤会員	白樺派のお話 大変勉強になりました。	1,000円
鈴木会員	素晴らしい卓話ありがとうございました。	1,000円
関根会員	稲村様 卓話ありがとうございました。	1,000円
寺井会員	稲村様 卓話ありがとうございました。	1,000円
野田会員	稲村様 卓話ありがとうございました。	1,000円
村越会員	稲村様 卓話ありがとうございました。	1,000円
米田会員	稲村様 卓話ありがとうございました。	1,000円
当 日 計		13,000円
今期累計		217,000円

●本日のランチ



今週の表紙「鈴木屋本店」千葉県我孫子市寿1丁目10番21号

国道356号線沿いにある創業1879年（明治12年）という老舗の割烹です。現在の建物は昭和30年代に建てられました。全室和室の個室でゆっくりと日本料理を味わえます。大広間には舞台があり、お稽古事等の発表会もできます。毎月一度、日曜の夕方に「わいわい亭」という寄席が開催されています。おいしい料理、行き届いたサービスにも定評のあるお店です。

ロータリーの友事務局 ホームページ www.rotary-no-tomo.jp メールは web@rotary-no-tomo.jp

環境NPOオフィス町内会が中心となって2005年に立ち上げた新たな間伐促進活動が「森の町内会」です。この活動に賛同して「印刷用紙」や「コピー用紙」を使用する企業は2009年9月現在、92社にのぼり、その環境貢献として促進される岩手県岩泉町・葛巻町・青森県三沢市での間伐は、年間30haの規模になっています。グリーン購入大賞で大賞を、山村カコンクールで林野庁長官賞を受賞しています。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。

我孫子ロータリークラブは、環境貢献として、「森の町内会」を応援します。